

# 図書館だより



## 6・7月号

令和6年6月12日  
 港区立青山中学校  
 校長 中田 和直  
 学校司書 三島 裕美  
 図書館支援員 武田 優子  
 塩野谷 恭輔

梅雨の季節がやってきました。じめじめして室内で過ごすことも増えますが、そんな時こそ本を手にとってみませんか？

今月号では、雨や天気まつわる本をはじめ、朝の連続テレビ小説「虎に翼」のモデルの本もご紹介します。



### 6月15日 日本ではじめての女性裁判所長誕生

1927年6月15日、朝ドラ「虎に翼」のモデルである三淵嘉子が新潟家庭裁判所の所長に任命されました。

三淵嘉子さんについて書かれた本には『三淵嘉子の生涯~人生を羽ばたいた"ドラママ"』（佐賀千恵美/著 内外出版社）『日本初の女性裁判所長 三淵嘉子』（別冊太陽編集部/編 平凡社）などがあります。気になる人は探してみてくださいね。

参考『きょうはなんの記念日?366日じてん』  
 平野恵理子/著 (偕成社)

### 方言を比べてみよう!

地域ごとの「かたつむり」の言い方の違いを見てみましょう。

- 「なめくじ」 北海道・島根県・佐賀県など
- 「つぶらめ」 宮崎県・鹿児島県
- 「だいろ」 栃木県・埼玉県・長野県など
- 「なんぼ」 北海道・大分県など26県

参考文献 『みんなが知りたい!いろいろな方言がわかる本』ペンハウス/著 (メイツ出版)

★今回の題材は生誕100年を迎えた文学者「阿部公房」です。

### 名作まちがいさがし

『砂の女』  
 阿部公房

男は、砂丘の穴底の家で一晩過ごしました。翌朝、穴から出ようとすると、上に登る縄ばしごが見当たりません。目印の俵が置かれたあたりの砂の中を探しましたが見つからず、男はぼう然ときつい傾斜を見上げるのでした。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。



\* 図書館教育ニュース第1660号付録(2024年6月8日発行)より

\* 『砂の女』は新潮社などから出版されています。

作者は小説家、劇作家の阿部公房(一九二四〜一九九三年)。戦後文学の最高傑作の一つとも称される本作は、あり地獄のような場所に監禁された男を描いた中編小説です。緊張感あふれる展開で、自由とは何か、人間の極限の姿を追求しています。ほかの作品には、今年、実写映画が公開予定の「箱男」や、芥川賞を受賞した「壁」・「カルマ氏の犯罪」、「燃えつきた地図」などがあります。

作品の概要・解説  
 教師の仁木順平という男が、趣味の昆虫採集のため、砂丘に囲まれた貧しい部落を訪れます。村人に一夜の宿を請うと、砂丘の穴底にある粗末な家に案内されました。家には女が一人で暮らしていて、たまった砂をかき出す作業をしていました。翌朝、男が帰ろうとすると、縄ばしごが外されて、穴から出られなくなっていました。つねに砂を運ばないと村が埋もれてしまうため、労働力として村人たちに幽閉されたのです。男は憤りますが、どうしようもなく、穴底で女と暮らすこととなります。男は知恵を絞る、何度も脱出を試みますが、村人や砂に阻まれて

# 雨の日も図書館で楽しく！ イベントを2つ紹介します！！

期間：2024年6月10日(月)～7月5日(金)

## 1、本を借りてシンガポールクイズに挑戦しよう！

本を借りた人が参加できるイベントです。本を借りた人は図書委員に解答用紙をもらって、クイズの答えを記入し提出してください。全問正解者には選べる景品(文房具等)を差し上げます。全問正解するまで何度でもチャレンジできます。シンガポールに詳しくなってくださいね！

## 2、七夕企画：短冊に願い事を書こう！

7月7日は七夕です。皆さん、図書館で短冊に願い事を書いてみませんか？図書館に来た人どなたでも参加できます。

### 〈注意〉

人を傷つける内容、個人が特定される内容のもの等は、飾ることができませんので気を付けてください。



六月のおすすめ本



### 『春の雪』

三島由紀夫/著 (新潮文庫)

夢を見ているとき、「私」はいったいどこにいますか。この答えは複雑です。夢に登場する自分自身でもあれば、同時に、夢は私の脳が作り出したものであるという意味で、夢の世界そのものも「私」であるといえます。

三島由紀夫の遺作となった本作でも、同じことが起きているのではないのでしょうか。三島という個人が劇的にこの世界から消失したことによって、その作家性は主人公と作品世界全体のあいだで無限に反響するこだまとして、かえって強烈に私たちの前に立ち現れてくるのですから。

### 『ペンギン・ハイウェイ』

森見登美彦/著 (KADOKAWA)

6月は歯の衛生週間、ということで歯科医院のお姉さんと「ぼく」の不思議なお話の紹介です。街に突如ペンギンたちが現れ、その謎を研究することにした「ぼく」。宇宙ステーションみたいな歯科医院にいるお姉さんの不思議な力とペンギンたちが関わっているようで…。この作品はアニメ映画にもなりました。独特な表現でたくさんファンを持つ森見登美彦さんの世界をぜひ本で味わってみませんか。

### 『すごすぎる 天気の本鑑』

空の不思議がすべてわかる！

荒木健太郎/著 (KADOKAWA)

空はとても身近な存在ですがあまり知られていないことがたくさんあります。この本では「雲は何でできている？」「空が青いのはなぜ？」「人工降雨で天気は変えられるのか？」といった空にまつわる疑問を一気に教えてくれます。

この本を読むと天気に関する知識を深められるとともに、もっと興味が出てくると思います。梅雨を迎えるこの時期、ぜひ手に取ってみてください。

